

第8次 笠岡市総合計画

案

令和7年9月

第1章 総論

- 1 総合計画について
- 2 笠岡市の概要

第2章 基本構想

- 1 将来ビジョン
- 2 将来ビジョンに向けた基本理念
- 3 施策目標

第3章 基本計画

- 1 暮らしを支える
- 2 まちを整える
- 3 こどもを守り人を育む
- 4 行政経営

第4章 人口フレーム

- 1 人口の動向
- 2 笠岡市の将来推計人口
- 3 総合計画・総合戦略の実施を踏まえた人口推計
- 4 将来の人口フレーム

第5章 総合戦略（第3期）

- 1 策定趣旨
- 2 本市の現状と課題
- 3 対策の基本方針
- 4 実施施策

第6章 資料編

第8次笠岡市総合計画

第1章

総論

（案）

令和7年9月

1 総合計画について

（１）総合計画とは

総合計画とは、笠岡市の目指す将来像とその実現に向けた施策を表したもので、まちづくりの指針となる笠岡市の最上位計画です。

笠岡市では昭和 45 年以来、7 次にわたって総合計画を策定し、まちづくりの施策を推進してきました。

昭和 44～50 年度 笠岡市振興計画 「明るい、住みよい、笠岡市」

昭和 54～60 年度 第 2 次笠岡市振興計画「希望と安らぎのある近代的田園工業都市」

昭和 62～平成 5 年度 第 3 次笠岡市振興計画「ゆとりと生きがいのある人間尊重のまち」

平成 6～13 年度 第 4 次笠岡市振興計画「こころやさしい生活元気都市」

平成 14～21 年度 第 5 次笠岡市振興計画「みんなで築く生活元気都市」

平成 22～29 年度 第 6 次笠岡市総合計画「市民協働で築くしあわせなまち 活力ある福祉都市かさおか」

平成 30～令和 7 年度 第 7 次笠岡市総合計画「元気・快適・ときめき 進化するまち笠岡」

総合計画の策定については、地方自治法により定められていましたが、平成 23 年 5 月の法改正により策定義務はなくなったため、策定の判断は各自治体に委ねられることになりました。

しかし、目まぐるしく変化する社会情勢のなか、笠岡市の特色や地域資源を生かし、市民の多様なニーズに対応できる住民に身近な総合計画として、今後 8 年間のまちづくりの指針となる「第 8 次笠岡市総合計画」を策定することとしました。

(2) 計画の構成

①基本構想

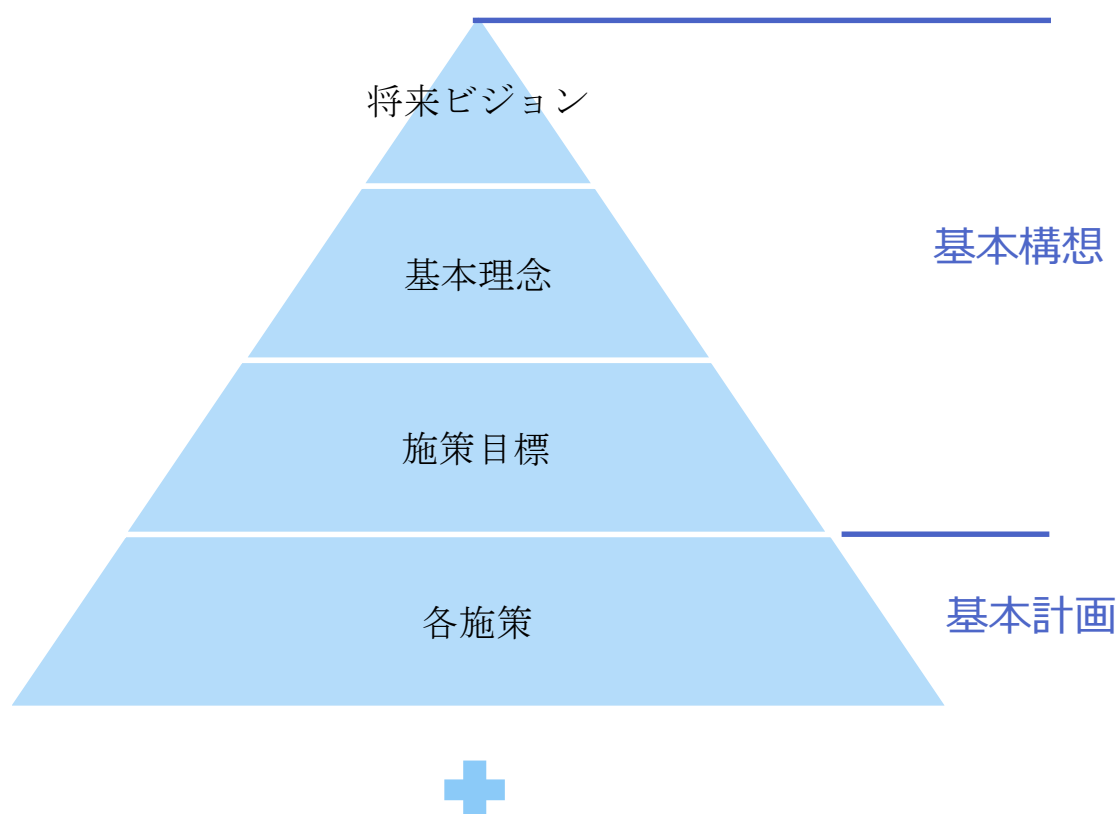
本市の目指す「将来ビジョン」を示し、その実現に向けた「基本理念」を明らかにするとともに、各分野における「施策目標」を示します。

②基本計画

基本構想に基づき、各分野の目標となる指標を設定した取組の内容を示します。

③総合戦略

令和4年、国において「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改定し、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定したことを受け、本市でも令和7年度に計画期間終了となる「第2期笠岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂し、「第3期笠岡市~~ま~~
~~ち・ひと・しごと~~創生総合戦略」を策定し本計画と一体化します。



~~まち・ひと・しごと~~創生総合戦略

人口減少や少子高齢化などに対応し、地域の活性化や持続可能な発展を目指す戦略を示すもの

※本市では、第7次後期計画より総合計画に組み込み

(3) 計画の期間と進捗管理

①基本構想

基本構想の計画期間は令和8年度（2026年度）から令和15年度（2033年度）までの8年間とします。

②基本計画

基本計画（目標となる指標等）の計画期間は令和8年度（2026年度）から令和11年度（2029年度）までの4年間として、期間終了後は見直しをするとともに、毎年度進捗評価・検証を行います。

③総合戦略

総合戦略の計画期間は、令和8年度（2026年度）から令和11年度（2029年度）までの4年間とします。

西暦(年度)	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
令和(年度)	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
基本構想	【8年間】							
基本計画	前期基本計画【4年間】				後期基本計画【4年間】			
総合戦略	【4年間】							

2 笠岡市の概要

(1) 笠岡市民憲章

笠岡市民憲章は、市民生活の指針、行政の指針となるものです。
第8次総合計画は、市民憲章の理念に沿って取組を進めていきます。

笠岡市民憲章

昭和 47 年 4 月 1 日制定 平成 14 年 4 月 1 日一部改正

笠岡市は、ゆたかな伝統と美しい自然に恵まれた希望のまちです。
わたくしたちは、笠岡市民であることに誇りと責任を持ち、
この憲章を心のささえとして日常の生活にいかし、
明るく、住みよいまちづくりを進めます。

- 1 自然を守り、緑と花とを育てましょう。
- 1 親切をつくし、礼儀を正しくしましょう。
- 1 こどもと老人のしあわせをはかりましょう。
- 1 元気ではたらくよろこびに生きましょう。
- 1 教養を深め、文化の向上につとめましょう。

市章

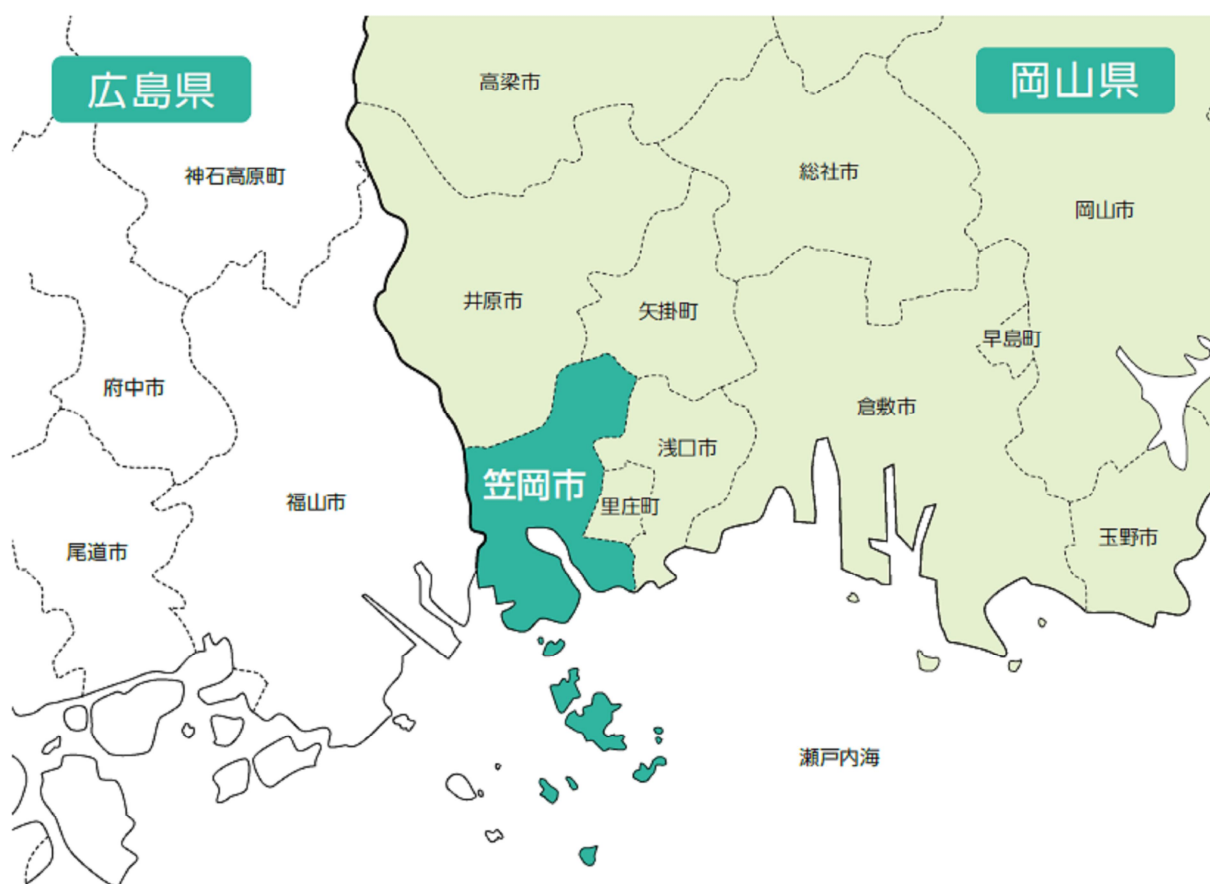


（２）位置的・自然的特性

本市は、岡山県の南西部に位置し、東西 13.6Km、南北 33.6km にわたり、市域面積は 136.24k㎡あります。

東は浅口郡里庄町、浅口市、北を井原市と小田郡矢掛町、西を広島県福山市に接しており、南は瀬戸内海を隔てて香川県と接しています。

主な特性として、①気候は温暖少雨の典型的な瀬戸内式気候。いわゆる”晴れの国”であり、豪雨や地震による災害履歴が少ないこと、②海・島・山といった瀬戸内海の風光明媚な自然環境に恵まれ、さらには笠岡湾干拓地や笠岡市北部における昔ながらの田園風景・里山風景といった広大な自然景観に恵まれ、~~おり、港町・寺町といった歴史・文化的な景観が残されて~~いること、③倉敷市と福山市という中核市に挟まれ、井笠3市2町（笠岡市・井原市・浅口市・里庄町・矢掛町）を加えた総人口は100万人を超え、そのエリアのほぼ中央に位置しており、これらの市町と広域連携していること、④ＪＲ山陽本線、山陽自動車道、国道2号、国道2号バイパスといった基幹的な交通軸が通る要衝となっていることなどがあげられます。



(3) 笠岡市の歴史・文化

笠岡の歴史は古く、縄文・弥生時代からの遺跡が残っており、室町時代には、港町としての基礎が築かれ、その後も村上水軍の所領、江戸幕府の直轄領となるなど、我が国の歴史のなかでも軍事や交通の要衝として重要な役割を果たしてきた地域です。

また、江戸時代から平成までの数百年間にわたって干拓事業が行われており、長い歴史のなかで先人たちによる多大な努力と投資により現在の笠岡市が形成されています。

縄文 ～ 平安時 代	<ul style="list-style-type: none"> ◆津雲貝塚（縄文時代）は170体近い人骨が出土したことで知られる ◆5～6世紀にかけて北川・新山に長福寺裏山古墳群等の古墳が築造された ◆大化の改新以後の国郡制の施行により、笠岡地方は小田郡甲努郷・魚渚郷、浅口郡大島郷等に分割された
鎌倉 ～ 戦国時代	<ul style="list-style-type: none"> ◆鎌倉から室町時代にかけて、源平合戦・南北朝の動乱でその名を残す「陶山氏」が台頭 ◆陶山氏は笠岡山城を築き、遍照寺を町の中核に据えて、現在の笠岡の基礎をつくったとされる ◆戦国時代、16世紀の中頃に笠岡は毛利方の「村上氏」の所領となった ◆村上氏は水軍を率いて活躍、笠岡城を築城（※現在の古城山公園はその城跡）
江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> ◆1600年の関ヶ原の戦い後、幕府の直轄領となる ◆1619年には備後福山藩の「水野氏」の所領となる ◆干拓により1661年に吉浜新田、1674年には富岡新田が生まれ、独立村となる ◆1698年、再び幕府の直轄領となり、1700年に代官所が設置され、以後幕末まで168年の代官支配が行われた ◆笠岡港は、陣屋町の港として物資が集まり繁栄した
明治 ～ 大正時代	<ul style="list-style-type: none"> ◆明治元年5月に倉敷県、続く明治4年11月には深津県の直轄となる ◆明治5年6月、深津県が小田県と改められ、同県の県庁が笠岡に設置される ◆明治8年12月、小田県は岡山県に合併される ◆明治22年6月の町村制施行により、笠岡市域の39か村が合併して15か村に ◆明治24年10月、笠岡村は町制を施行、以後、笠岡町は備中地方の産業・交通・文化の要衝として発達
昭和 ～ 平成	<ul style="list-style-type: none"> ◆昭和26年4月に今井村を編入 ◆昭和27年4月に金浦町と合併、市制を施行 ◆昭和28年10月に城見・陶山・大井・吉田・新山・神島内の6か村編入 ◆昭和30年4月に神島外町・白石島村・北木島町・真鍋島村・大島村（柴木地区を除く）編入 ◆昭和33年12月に「富岡湾干拓」完成（現在の番町地区） ◆昭和35年4月に北川村を編入 ◆昭和59年5月に「美の浜埋立」完成 ◆平成2年3月に「笠岡湾干拓」完成、「笠岡市立カブトガニ博物館」が会館

(4) 笠岡市の個性と魅力

笠岡の魅力の一つとして、我が国最初の国立公園である瀬戸内海国立公園区域内にあり、有人7島を含む大小30の島々からなる笠岡諸島があります。

そのうち有人7島では、それぞれ~~パラスポットの~~神武天皇伝説が残る高島、レジャーと文化の白石島、歴史ある石の北木島、祭りと映画の真鍋島、~~恋人が集い~~潮待ちと椿が咲くの大飛島・小飛島、灯台と水仙の六島といった独自の魅力があり、個性豊かな文化が栄えています。

ほかにも、平成2年に24年間の歳月を経て完成した笠岡湾干拓地では、道の駅を中心として、畑一面に広がる季節の花やトウモロコシ畑など圧巻の風景が楽しめるとともに、同じ干拓内にある青空市など観光スポットもあり、多くの来訪者で賑わっています。

また、2億年前から変わらぬ姿で現在に生き続け「生きた化石」として貴重な生き物であるカブトガニが有名であり、国指定天然記念物である”カブトガニ繁殖地”である神島水道をのぞむ場所には、世界で唯一のカブトガニをテーマにした博物館があり、笠岡市の豊かな自然を象徴しています。

